

今月の15首

佐佐木幸綱・選

渡り鳥多きは日向の幸さいちなるぞ鳥インフルは変災といへ

伊藤 一彦

アナログのアメリカ西部劇の中のブリーチデニムの空が広がる

山口和賀子

雪に飽き雪かきに飽き書を読めば雪の場面がでてくる不快

片岡なおこ

日が昇り炎燃え立つ氷上に頸をもたげる二、三羽のあり

鈴木 勉

温かきコーヒーカップ掌に包み窓より測る昨夜よるよりの雪

佐々木智子

「これから」と書くための墨磨る朝は指の感覚すこし軽やか

金 有美

亡き伯父のスキットルボトル身に馴染み胸に優しきウキスキーかも

松本 秀一

おさがりのウールサージの喪の服のつくづく温しき母の肩巾

倉石 理恵

カーテンの襞にあわせて波を打つ物干し竿を離れた影は

大塚 泰子

五十年のわが歌の母は逝きたもう如月の空の風しずかなれ

高辻 郷子

ガリ版刷りの歌会のプリントなつかしき由幾先生の手書きのプリント

伊勢 勇

足元にひっそり愛犬エリーおき選歌し給いし机に草の鷲

住 正代

電話来て通夜・告別に声と顔滲ませて去りぬ伊藤一彦

大野 道夫

真に生き美を追ひませと説かれたる大正女人麗しきかな

八城スナホ

あれからわれもコーヒー紅茶は砂糖ぬき由幾先生の思い出多し

松井千也子